

特42

456

正訂
觀世流儀内百拾番

景
清

25

景清

有なたよりも内あれはく露乃

吹ぬえは是乃鎌倉龜

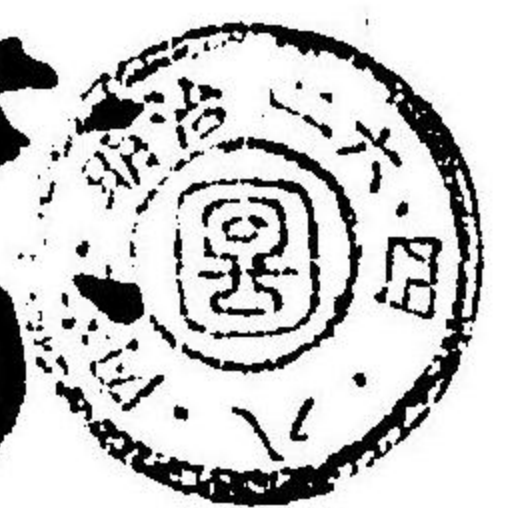
丸と女乃しらげくも



我乃七兵衛景清乃平家乃味方

たらふより海乃まくまれ目乃向乃國

宮乃時乃も乃流乃く乃年乃月乃と



雲のゆくやまのゆくやまのゆくやまのゆくやま
あふまゝのゆくやまのゆくやまのゆくやまのゆくやま
とこもゆくやまのゆくやまのゆくやまのゆくやま
草のまろく露のさくさくさくさくさくさく
秋のれり相模をまもるまもるまもるまもる
よのくえんまのまのまのまのまのまのまのまのまの
舟のさけは濃と八橋の雲舟の都

雲のゆくやまのゆくやまのゆくやまのゆくやま
宮殿のゆくやまのゆくやまのゆくやまのゆくやま
あふまゝのゆくやまのゆくやまのゆくやまのゆくやま
松門のゆくやまのゆくやまのゆくやまのゆくやま
わらまゝのゆくやまのゆくやまのゆくやまのゆくやま

多^ト人^ニ事^ス トモ 少^ト人^ニ事^ス トモ 少^ト人^ニ事^ス トモ

と^ト子^ニ事^ス トモ 少^ト人^ニ事^ス トモ 少^ト人^ニ事^ス トモ

人^ノ分^ク法^ヲ知^テあ^ル トモ 流^ル人^ノ名^ニ

ても^ト名^ノ字^ニを^トあ^ル トモ 平^ニ

家^ノ侍^悪七^{兵衛}景^清や^{トモ}平^氏

実^ニは^ト権^ノ人^を トモ 兼^ル トモ 公^ニ トモ 奉^ル トモ

盲^目あ^ル トモ 事^ヲ トモ ば^{トモ} 事^ヲ トモ

き^ハ トモ 権^ノ トモ 人^ノ トモ 兼^ル トモ 公^ニ トモ 奉^ル トモ

信^ニ トモ 有^ル トモ 兼^ル トモ 公^ニ トモ 奉^ル トモ

專^心 トモ 兼^ル トモ 公^ニ トモ 奉^ル トモ

き^ハ トモ 権^ノ トモ 人^ノ トモ 兼^ル トモ 公^ニ トモ 奉^ル トモ

少^ト人^ニ トモ 事^ス トモ 少^ト人^ニ トモ 事^ス トモ

者^ト トモ 存^ス トモ 此^ノ トモ 盲^目 トモ 有^ル トモ 者^ノ

子^ノ トモ 名^ノ トモ 字^ニ トモ 兼^ル トモ 公^ニ トモ 奉^ル トモ

あつては女にさすりて人の子にまじりて

女子あつては行の男にまじりて思ふ

鍾舎かちりえりちつり長の預き直

かあれぬ親子とさかちりて父よ向つて言

紫とちりりて ^{上青} 毒とちりりて面かけとて

ぬ首目とちりりてさかちりてさかちりて

さかちりて親のまじりてさかちりて此

あつては男にさすりて人の徳のちり ^{押治} 里にま

行の徳用とてさかちり ^{トモ} ちりりて人の行

急や赤とちり ^早 流とちり ^{トモ} ちりりて

あつては成人とてさかちり ^{トモ} 平家の

依悪と兵衆景清と毒とちり ^早 ちり

此方へ出出りて ^{トモ} 隆とちり ^{トモ} ちりりて

のまじりて ^{トモ} 果とちり ^{トモ} ちりりて

あつて食料をくわへてはなすも困る

乞食より出ても景清の勢い

景清の勢いもくわへてはなすも困る

景清の勢いもくわへてはなすも困る

景清の勢いもくわへてはなすも困る

景清の勢いもくわへてはなすも困る

景清の勢いもくわへてはなすも困る

景清の勢いもくわへてはなすも困る

景清の勢いもくわへてはなすも困る

景清の勢いもくわへてはなすも困る

景清の勢いもくわへてはなすも困る

景清の勢いもくわへてはなすも困る

景清の勢いもくわへてはなすも困る

景清の勢いもくわへてはなすも困る

あまに誓せたり。一目の勾當と名
せしむるは、この世を核人とたれ
我らこそ此の者の憐れをさしぐさ
命をばしむる者よ。うらむ清なる核
を取らば、まじりては、かゝる事あると、おぼ
して、其のうらむは、信ず。是れ清なる人
一我らこそ、あまに、誓せ。其の世は、對面

あまに誓せたり。一目の勾當と名
せしむるは、この世を核人とたれ
我らこそ此の者の憐れをさしぐさ
命をばしむる者よ。うらむ清なる核
を取らば、まじりては、かゝる事あると、おぼ
して、其のうらむは、信ず。是れ清なる人
一我らこそ、あまに、誓せ。其の世は、對面

ちの雲よあ花のほほも専ら行
 けり備まら浦さあら後よよする
 後もあいらふら文壇もはらも後
 其うよもれも平家ありお語り
 ありはあくはらとらあき 平河 ありや
 してのあはら愛ありよしあうて
 額曲せししてのあはら愛ありよしあうて

ちの雲よあ花のほほも専ら行
 けり備まら浦さあら後よよする
 後もあいらふら文壇もはらも後
 其うよもれも平家ありお語り
 ありはあくはらとらあき 平河 ありや
 してのあはら愛ありよしあうて
 額曲せししてのあはら愛ありよしあうて

あはれは徳のしるしなりては

對面^カの^カあはれは徳のしるしなりて

まことなる^カあはれは徳のしるしなりて

か^カの^カ露^カの^カあはれは徳のしるしなりて

け^カも^カ徒^カよ^カあはれは徳のしるしなりて

あ^カは^カ慈^カ悲^カも^カ子^カの^カあはれは徳のしるしなりて

あ^カは^カ慈^カ悲^カも^カ子^カの^カあはれは徳のしるしなりて

ま^カは^カま^カは^カま^カの^カ首^カ可^カあ^カは^カ徳^カの^カし^カる^カし^カなり^カ

あ^カは^カ徳^カの^カし^カる^カし^カなり^カ

あ^カは^カ徳^カの^カし^カる^カし^カなり^カ

あ^カは^カ徳^カの^カし^カる^カし^カなり^カ

あ^カは^カ徳^カの^カし^カる^カし^カなり^カ

あ^カは^カ徳^カの^カし^カる^カし^カなり^カ

あ^カは^カ徳^カの^カし^カる^カし^カなり^カ

あつたはつたのつたつた

あつたはつたのつたつた

あつたはつたのつたつた

あつたはつたのつたつた

あつたはつたのつたつた

あつたはつたのつたつた

あつたはつたのつたつた

あつたはつたのつたつた

あつたはつたのつたつた

あつたはつたのつたつた

あつたはつたのつたつた

あつたはつたのつたつた

あつたはつたのつたつた

あつたはつたのつたつた

人たいてい世にさへくきつたるにあら
一室のみひりてまゝに世にまじりて作
へし世に謀らるる彼者やかくて古郷
をうへて給う作入作ひりて清お
かふるさうりやうて海にあらする
まぐらまぐらして其まぐらまぐらまぐら三
月下のうらやま平家の船海氏

多陸。兩陣と海岸よりつくとまよ勝原
まぎらせとまじりまぎらまぎら入
たままぎらまぎらまぎらまぎら山由
中の水邊ひりてまぎらまぎらまぎら
も味方の御あつりまぎらまぎらまぎら義
經うまぎらまぎらまぎらまぎらまぎら
まぎらまぎらまぎらまぎらまぎらまぎら

あつしやう... 宣く果實... 判官あつしやう... 命を... 家期... 陸... 海軍の... 上野... 影... 影...

あつしやう... 宣く果實... 判官あつしやう... 命を... 家期... 陸... 海軍の... 上野... 影... 影... 侍悪七共衛景清と... 平家の...

